

## 一般研究報告書

# 感覚障害のある重複障害児にかかるチームによる 総合的教育プログラムの研究 (平成10年度～平成13年度)

平成14年3月

独立行政法人

国立特殊教育総合研究所  
重複障害教育研究部

視覚と聴覚の両方に障害のある子どもに  
役立たせるための

## 情報ポートフォリオ

平成14年3月

独立行政法人

国立特殊教育総合研究所  
重複障害教育研究部

視覚と聴覚の両方に障害のある子どもに  
役立たせるための

情報ポートフォリオ

## まえがき

この報告書は、平成10年度～13年度の4年間にわたって実施された一般研究「感覚障害のある重複障害児にかかるチームによる総合的教育プログラムの研究」の概要と、その成果に基づいて作成された、「視覚と聴覚の両方に障害のある子どもに役立たせるための情報ポートフォリオ」から構成されている。情報ポートフォリオは、重複障害のある子どもをめぐる多様な情報、その収集・管理・他者との共有に、多くのエネルギーを費やさざるを得ない保護者の方々が、より分かりやすく、より容易に、より効率よくできるよう、作成したものである。

本研究は以下のニーズと実態の把握をもとに企画・実施されました。

- 1 重複障害のある子どもたちは、多面的なニーズをもっており、多職種専門家をチームとした評価と実践が必要であり、そのようなチームをどう編成しどう連携していくかを整理していくことが課題であること。
- 2 感覚障害のある重複障害児のうち、視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」は稀少障害であり、県等での専門的対応が難しく、全国から多くの相談が研究所に寄せられており、ナショナルセンターとして、研究所がさらに専門性を高めながら、保護者の相談・教職員の研修ニーズに対応すべき課題の一つと考えられたこと。

なお、研究対象とする盲ろう児の選択は以下の実態を考慮して行った：

- 1) 盲ろう児は、ニーズの異なるいくつかのサブグループに分けられるため、ニーズの共通する小グループに分けて選択する。
- 2) 盲ろう児は盲聾養護学校のすべてに在籍しており、学校種による課題の違いが多々あり、相互に支え合う必要があるため、学校種を一つに固定しない。  
(盲学校は聴覚活用や手指コミュニケーションの活用に課題が多く、聾学校は視覚活用や触覚教材の活用に課題が多く、養護学校はその双方に課題がある等)。
- 3) 盲ろう児は各地に散在しているため、遠隔地の事例も含め、全国的に対応する。

本研究では、10の都道府県から当研究所に相談を寄せられた多様な教育的ニーズのある盲ろう児15名を対象とした。子ども、家族および担当教職員が、研究所において編成した多職種専門家チームとともに2泊3日の合宿を行い、総合的な評価を生活の中で実施し、様々な盲ろう児に適した総合的教育プログラムについて検討するとともに、他職種専門家チームの在り方について研究した。

これらの合宿を通して、盲ろうの子どもを総合的に評価し、適切なプログラムを作成するために不可欠な養育・医療・療育・教育情報について、誕生時から保護者が収集・管理し、関係する多数の医療関係者・療育／教育関係者と情報を共有していく必要性と、それを実際に行うことの困難さが繰り返し確認された。

この必要性に応え、保護者の負担をできるだけ軽減する方法として、「視覚と聴覚の両方に障害のある子どもに役立たせるための情報ポートフォリオ」が検討され、作成された。盲ろうの子どもたちの独特なニーズを念頭においた情報ポートフォリオは、合宿における総合的評価での経験から、かならず必要と考えられた情報を主体としたものを作成した。

情報ポートフォリオは、保護者の方々に活用していただき、そのフィードバックを得ながらさらに使いやすいものに発展させていくものである。また、ポートフォリオのある部分は、学校における個別の指導計画の活用できるように、将来的には展開していきたいと考えている。

終わりにあたり、合宿の実施において、いつも多くの発見とよろこびを与えてくれた子ども達と、ご協力いただきましたご家族、担当教職員、外部協力者の方々、そして視覚障害教育研究部および聴覚言語障害教育研究部に、心より感謝申し上げます。

平成14年 3月

独立行政法人  
国立特殊教育総合研究所  
重複障害教育研究部  
後 上 鐵 夫